

日本語はなぜ中国語より「高く」聞こえるのか？

～日中バイリンガル話者の音声ピッチ比較分析～

- 目的：異文化コミュニケーションにおける音声的な違和感の解明
- 手法：同一話者（日中バイリンガル7名）による両言語での同一テキスト読み上げ音声の比較分析



【検証結果】「平均ピッチ」に顕著な差はない

【検証A】日本語：261.4 Hz vs
中国語：250.4 Hz

【検証B】日本語：273.8 Hz vs
中国語：272.4 Hz

5名の対面検証でも平均値に大きな差は認められず。
人間の耳が感じる「高さの違い」は、単なる平均値では説明できない。

日本語



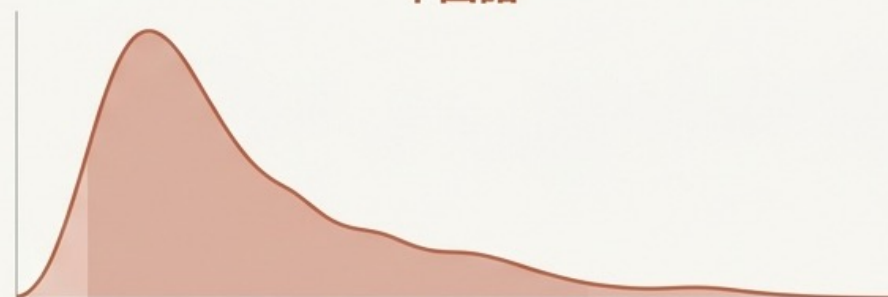
【分布形状：二山型】

中間ピッチの出現頻度が少なく、
両端のピッチが主要な層を形成。



この「高いピッチ」のピークが
耳に強く残るため、全体として
高く感じられる。

中国語



【分布形状：左寄り単峰型】

低いピッチが主要な層を形成し、
ゆるやかな山を描いている。



低い音が耳に残ることに加え、「第3
声（低く始まり、さらに抑え、最後に
わずかに上がる声調）」の存在により、
実際よりもさらに低く聞こえやすい。



言語の高さの印象は、音の『平均値』で決まるのではない。

特有の「周波数の分布パターン（どの音域が耳に残るか）」と「言語固有の音声ルール（声調の有無など）」が引き起こす、聴覚の錯覚である。